

新正口号（武田信玄）

淑氣 未だ 融せず 春 尚お 遅し

霜辛 雪苦 豈 詩を 言わんや

此の 情 愧ずらくは 東風に 咲われんことを

吟断す 江南の 梅 一枝

淑氣未融春尚遅 霜辛雪苦豈言詩
此情愧被東風咲 吟断江南梅一枝

解説 春にさきがけて咲く梅の詩でも作るう、との意。

語釈 ※新正＝新年。 ※口号：詩歌などを口ずさむこと。または即興の詩。 ※淑氣＝春のなごやかな気配。 ※未融＝和らがないさま。 ※霜辛雪苦＝霜や雪にひどく苦しめられる。 ※言詩＝詩を作る。 ※東風＝春風。 ※吟断＝吟じ作る意。 ※江南梅一枝＝呉の陸凱が江南から一枝の梅花に添えて詩を長安の范曄に贈った故事を用いた。

通釈 新年に入っても依然として冬の気配が濃く、まだ春は遠いといった感じである。霜や雪に痛めつけられた名残りの風景の中では、とても詩を作る心境などにはなれない。然りとて、こんな無風流な気持を、春風に笑われるのも気恥ずかしいから、まずあの陸凱の故事にならって江南一枝の梅の詩でも作ることにしよう。